

リハビリテーション論	看護学科		2年前期			
	1単位		講義	15時間		
[教員]：寺本 佳津明						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	リハビリテーションは全人間的復権を意味する言葉であり、あらゆる障害を原因とした活動制限や参加制約の状態の影響を減らすことと、障害者の社会的統合を目的とするあらゆる手段を含んでいます。そのリハビリテーションという言葉がもつ意味を理解し、その上で医学的、社会的、職業的、教育的リハビリテーションについて社会システムなども交えて学習します。またリハビリテーションの対象となる代表的な疾病について、疾病により起こる障害の特性、リハビリテーションの実際や環境調整、福祉用具の利用についても学習し、最後に地域支援に必要なリハビリテーションの諸側面について学習します。					
授業方法	概論などは講義中心に進め、疾病に対しての説明では実技やビデオ視聴を交えて理解を深めていきます。					
到達目標	1. [知識・理解] リハビリテーションの概念を理解し説明することができる。疾病における障害像を把握し説明することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 障害に対して、問題点を列挙した上で対応策や目標を示すことができる。(△) 3. [技能] 標準化された評価方法を用いてアセスメントすることができる。 ADLにおいて介助方法などを説明・実践することができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] リハビリテーションに関心を持つことができ、看護を結びつけながら適切な評価や看護目標の立案、生活支援ができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	50	10	20	-	80
	自己評価	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	50	10	30	10	100
成績評価と割合	筆記試験(まとめテスト) 80%、自己評価 10%、受講態度 10% の合計 100% で評価します。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『成人看護学(5)：リハビリテーション看護』ありません。					
参考書・教材	毎回資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	リハビリテーション医学 (授業ガイダンス、リハビリテーションの概念と歴史の変遷をICFとICIDHを交えて理解する)					
2	障害のとらえ方と評価・セルフマネジメント (評価方法、評価結果の解釈と対応を理解する。患者教育の重要性と方法を学ぶ)					
3	疾患別リハビリテーションの実際(1)：内部疾患1<呼吸器疾患・循環器疾患> (呼吸と循環の関連性を理解し、病態にあわせた対応方法を学ぶ) [準備・課題]呼吸・循環器疾患の身体的・心理・社会的特徴を確認しておく(1h)					
4	疾患別リハビリテーションの実際(2)：内部疾患2<脳血管障害、脳腫瘍> (脳血管障害等の急性期から慢性期までのリハビリテーションについて理解する) [準備・課題]脳血管障害等の身体的・心理・社会的特徴を確認しておく(1h)					
5	疾患別リハビリテーションの実際(3)：内部疾患3<糖尿病、がん、その他> (代謝・内分泌疾患およびがんのリハビリテーションについて理解する) [準備・課題]糖尿病・がんの身体的・心理・社会的特徴を確認しておく(1h)					
6	疾患別リハビリテーションの実際(4)：神経筋疾患 (神経筋疾患のリハビリテーションについて理解する) [準備・課題]神経筋疾患の身体的・心理・社会的特徴を確認しておく(1h)					
7	疾患別リハビリテーションの実際(5)：運動器疾患 (骨折、腱損傷、脊髄損傷などのリハビリテーションについて理解する) [準備・課題]運動器疾患の身体的・心理・社会的特徴を確認しておく(1h)					
8	地域リハビリテーション・社会福祉制度 (地域リハビリテーションに関する日本の定義や地域支援活動について学ぶ。 また、社会資源の活用について事例を通じて学ぶ)					
時間外での学習	準備・課題として示した内容を事前確認して授業に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	リハビリテーションについて、全8回という多くの授業の機会をいただきました。患者さんの希望を絶やさずことなく、医療から地域へつなげていくために私たちに何ができるか一緒に考えていきたいと思います。オフィスアワーは、教室にて講義修了後に行います。					

社会福祉論	看護学科		2年前期	
	1単位		講義	15時間

[教員]：北嶋 勉

[関連する資格・履修制限等]：

授業内容 国民のセーフティネットとして、社会福祉・社会保障制度は日本国憲法で規定する基本的人権等の施策としても重要な役割がある。しかしながら、時の政治的・経済的状況や、現在と将来にわたる人口構造等の問題に左右されることも事実である。諸課題に左右されつつも現に諸制度を現業・研究等職業を通じ、前記の社会福祉・社会保障制度の理念・原理について理解を深める。

授業方法 テキスト・資料を中心に進める他、定期的に課題設定のレポート提出を求める。「具体的な理解の深まりと不足する事項に係る自己学習」等のための「定期的自己評価」を任意用紙にて提出を求める。

到達目標  
 1. [知識・理解]  
 ①看護職を目指すものとして基本となる社会福祉の成り立ち・目的・方法等の知識を学ぶ。  
 ②社会・他者とりわけ支援を必要とする人と関わる上で社会福祉の原理が基礎となることを学ぶ。(◎)  
 2. [思考・判断・表現]  
 ①単に用語を記憶するのではなく「何故に」という「問いかける姿勢」を求める。  
 ②「文章化、発表・態度・表情」のゆたか醸成により「表現力」を求める。(◎)  
 3. [技能]  
 ①テキスト等で示される各種データを読み取る力を養う。レポート等により論理的能力を培う。(△)  
 4. [関心・意欲・態度]  
 ①社会福祉の幅が拡大していることを意識し、時事問題等もサブテキストとして活用する。(○)

観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
		筆記試験	30	20	-	-
課題レポート	10	5	10	-	25	
自己評価	-	10	-	5	15	
受講態度	-	-	-	10	10	
合計	40	35	10	15	100	

成績評価と割合  
 1. 筆記試験 50%：基本的な知識や記述による思考等を評価する。  
 2. 課題レポート 25%：授業内容をより深めるため定期的にレポートの提出を求める。基本、その内容の評価等コメントをする。比較的比重を高くしているのは、課題に対する知識・理解を深める力を培うためである。  
 3. 自己評価 15%：当方で準備する「自己評価表」の提出を定期的に求める。具体的に理解できたところ・理解できなかったところを整理し、特に理解を深める事項についての「取り組み姿勢」まで言及を求める。期限までに未提出の場合は当該点から減点する。  
 4. 受講態度 10%：私語・雑談・本授業以外の作業等については、都度注意をし、当該点から減点する。  
 \*欠席は基礎点数である100点からの減点とする。3回以上の欠席が授業最終日までに確定している者は、筆記試験を受けるまでもなく単位取得ができない。

テキスト デジタルナースィング・グラフィカ『健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障』メディカ出版

参考書・教材 新聞記事や省庁公表の資料等必要に応じ準備します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	社会福祉・社会保障の歴史と目的について学ぶ。 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。現代の社会福祉・社会保障の歴史的発展過程を学び今日の社会福祉・社会保障を取り巻く諸課題を学ぶ。(2h)
2	社会福祉の実践と技法及び分野別社会福祉諸制度について学ぶ。 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。看護職が担う社会福祉実践についても触れる。今日医療機関に限らず様々な分野で看護業務が実践されており医療・看護知識に限らず幅の広い知識や技法が求められていることに応えていく。(2h)
3	セーフティネットである生活保護制度と地域福祉について学ぶ。 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会保障制度の中で最も基礎となる「生活保護制度」について仕組み・制度内容・今日的傾向について学ぶ。(2h)
4	地域福祉について学ぶ [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。地域福祉の基本的理念と歴史について学ぶ。又、現在推進されている「地域包括ケア」について地域福祉との関連から学ぶ他、チームケアについて学ぶ。(3h)
5	社会保障制度について学ぶ ①年金制度と医療保険制度 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。当該制度の仕組み・目的を理解するほか今日的課題についても理解する。(2h)
6	社会保障制度について学ぶ ②介護保険制度と雇用保険制度 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。当該制度の仕組み・目的を理解するほか今日的課題についても理解する。(2h)
7	まとめ 「生活と福祉」の関連を学ぶ [準備・課題]生活をするうえで「福祉」がどのような位置にあるか、「有事」の際に限らずどのような役割を持ち、どのような役割を私たちは持たなければならないか等、テキストの事例に触れながら考える。(2h)
8	看護師国試過去問を解き、解説する。 [準備・課題]筆記試験に関連する統計表等に触れ、数値変化とその意味するところを推測する。(1h) ※筆記試験では社会福祉に関する基礎的な問題(選択方式)に合わせ「根拠」により考察・推測し、的確に記述できることを評価する。

時間外での学習 社会福祉及び社会保障について試験を含め8回で学ぶため事前学習及び適宜設定する「課題レポート」「自己評価による理解度チェックと取り組み」はとても重要となる。特に「課題レポート」には設定問題を通し、「自分の考え」についても触れてもらいたい。

受講学生へのメッセージ 社会福祉は人間理解と大いに関連する。その意味で看護に必要な不可欠な知識・技能といえる。社会福祉・社会保障が時の政治、経済、環境(人口構成等)に少なからず影響されながらも普遍的な原理原則に立ちながら他者(クライアント)に向き合う意義・意味についても考えたい。オフィスアワーは、教室で講義終了後に行う。

看護医療安全管理学		看護学科		2年後期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：伊藤 恒子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	医療のあらゆる現場において医療安全は最優先課題のひとつです。看護職には、人々の安全のみならず自分自身を守る安全管理の確かな知識とスキルが要求されます。本科目では医療安全の確保及び看護の質向上の観点から、リスクマネジメントに関する基礎的知識と事故防止対策、必要なスキルについて解説します。また学生自身がヒューマンエラーを起こす存在であることを自覚し、自己モニタリングできることを目指します。					
授業方法	テキスト及び配布資料を基に講義し、適宜グループワークを取り入れます。					
到達目標	1. [知識・理解] 医療安全とは何かを関係法規と合わせて理解する。 (◎) 2. [知識・理解] 安全プログラムの中から、感染防止・制御・衛生、ヒューマンエラー、事故発生時の対応を理解する。 (◎) 3. [思考・判断・表現] チーム医療の一員として、医療安全を考え行動することの意味を述べる事が出来る。 (△) 4. [技能] ヒューマンエラーと自己の傾向を理解し、セルフマネジメントの方法が分かる。 (△) 5. [関心・意欲・態度] 看護職にとっての医療安全に強い関心を持ち主体的に学習することが出来る。 (△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	60	-	-	-	60
	課題レポート	-	10	10	-	20
	ミニレポート	10	-	-	-	10
	グループワーク参加度	-	-	-	10	10
	合計	70	10	10	10	100
成績評価と割合	筆記試験(1回) 60%、課題レポート(2回) 20%、ミニレポート(毎回) 10%、グループワーク参加度 10%の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『看護の統合と実践(2)：医療安全』メディカ出版					
参考書・教材	適宜提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	序：授業のガイダンス、医療における安全管理とは何か 【講義・グループワーク】 [準備・課題] 講義の進め方を理解し、予習復習に生かす。安全管理とは何かを理解する。配布資料・講義内容・グループワークを振り返り、レポートにまとめる。(1h)					
2	看護業務の特性と医療事故 【講義】 [準備・課題] 日々実践する看護業務がどのような事故につながる危険性があるかを学ぶ。配布資料と講義内容を振り返り、課題を整理して要点をまとめる。(1h)					
3	看護職に求められる個人情報保護と倫理綱領 【講義・グループワーク】 [準備・課題] 看護概論で学んだ倫理綱領と過去に問題となった事例を関連付けて検討し、自己に置き換えて理解する。グループワークでの学びを整理する。(2h)					
4	感染予防と安全管理 【講義・グループワーク】 [準備・課題] 安全管理のための具体的な行動とは何かを知り、習得した看護技術と関連付けて理解する。講義内容と看護学生としての課題を整理してまとめる。(2h)					
5	看護実践と危険予知(インシデント・アクシデントの活用意義) 【講義】 [準備・課題] インシデント等が危険予知にどの様に生かされているかを学び、看護場面から読み取る能力を養う。教科書、配布資料、講義内容を振り返り、課題を整理してまとめる。(1h)					
6	ヒューマンエラーと医療事故 【講義・自己分析テスト】 [準備・課題] 人ゆえに起す思い込み・勘違い等のミスが引き起こす医療事故と自己の傾向を知り、今後を生かす。教科書、配布資料、自己分析テストを振り返り、自己の傾向と課題を整理する。(1h)					
7	医療従事者が問われる法的責任(実際に起こった医療事故から学ぶ) 【講義・レポート】 [準備・課題] 今までの学びから、看護実践の中で問われる刑法、民法、保助看法、医師法とのかかわりを整理して講義に望む。看護職を目指す学生として講義内容から何を学んだかをレポートにまとめる。(2h)					
8	行政における近年の状況(ADR、医療事故調査の法制化等)、全体のまとめ 【講義】 [準備・課題] 受講を振り返り看護師(看護学生)としての医療安全管理の要点をまとめる。教科書、配布資料、講義内容を振り返り、自己の課題を整理する。(1h)					
時間外での学習	関連科目の復習してください。 新聞等の医療事故ニュースや医療の関連記事にも関心を持ち、幅広い学習を進めてください。					
受講学生へのメッセージ	関連する教科と結びつけて学習し、単に知識にとどまらず実践の能力として身につけてほしい。よって積極的に学び取る姿勢で臨んでください。グループワークなども取り入れ、できるだけ参加型授業形態を取り、共に学べる授業にしたいと思います。 オフィスアワーを有効に活用してください。(日程は別途お知らせいたします)					

看護関係法令		看護学科		2年後期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：松原 薫						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	看護業務は人間の生命に直接関係するため、それに関わる人の身分や業務内容、教育制度など法令によって規制されています。本科目では、法の概念と厚生行政のしくみ、関連する法規について理解することを目標とします。具体的には看護師の業務と労働に関連する保健師助産師看護師法、看護師の人材確保の促進に関する法律、労働基準法、医療法、薬事法などについて教授します。また、身近な生活環境の衛生を維持するための保健衛生や健康に関する法規について、その基本理念と特徴について教授します。					
授業方法	講義とグループワーク					
到達目標	1. [知識・理解] 法の種類と基本的性格について理解する。(◎) 2. [知識・理解] 看護職の基本法規を理解する。(◎) 3. [思考・判断・表現] 学習した法規をもとに、看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準がわかる。(○) 4. [関心・意欲・態度] 看護職として働くため関係する法規を学習する。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	50	10	-	-	60
	日々の課題・レポート	10	10	-	10	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	60	20	-	20	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、日々の課題・レポート 30%、受講態度 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『健康支援と社会保障④ 医療関係法規』 メディカ出版					
参考書・教材	看護六法 配布資料・パワーポイント					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	(1)法の概念／法の種類と基本性格、基本となる法規 (2) 医事法① 保健師助産師看護師法と看護師の資格／目的と定義 免許 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
2	医事法② 保健師助産師看護師法と看護師の資格／業務 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
3	医事法③ 保健師助産師看護師法と看護師の資格／医療過誤 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
4	医事法④-1 看護師等の人材確保の促進に関する法律／目的・内容 ④-2 看護に関する医師法・医療法／医師法：免許と業務、医療法：目的・内容 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
5	健康に関する法律① 保健衛生法、業務法、環境衛生法 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
6	健康に関する法律② 社会保障制度と社会福祉に関する法律 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
7	(1)看護職の労働に関する法律／労働基準法、労働安全基本法、個人情報保護に関する法律 (2)環境衛生に関する法律／環境法 (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
8	まとめ (講義・GW) [準備・課題]学習内容を復習する。(1h)					
時間外での学習	授業で学んだ法律が身近なところで実際にどのように使われているのか、改めて周りを見てください。家族や身近な人に聞いたり、ニュース・新聞などで確認してみてください。					
受講学生へのメッセージ	法令は難しいと思いがちですが、実際の社会生活とつながっていると分かるとおもしろく思えます。為になることが多く出てきますから、授業を大切にしてください。オフィスアワーは毎週木曜日の16：20から17：30です。					

臨床薬理学	看護学科		2年前期			
	1単位		講義	15時間		
[教員]：森 博美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	将来、看護師として医療現場で働くときに必要な薬の知識を習得することで、安全・安心な薬物治療が実施でき、医師や薬剤師に効果や副作用を的確に報告できるようになるような内容である。また、国家試験については薬に関連する内容に触れるものとする。					
授業方法	座学を中心とし、簡単な実験などを取り入れ、より理解を深めることができるように実施する。					
到達目標	1. [知識・理解] 看護の基礎となる人間理解と看護実践に必要な知識を修得することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 人々の健康問題の解決に向けて論理的に思考・判断するとともに、専門職としての責務について考えることができる。(△) 3. [技能] 看護活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力・態度を身につけ、看護を實踐できる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 保健・医療・福祉分野の動向に関心をもち、人々の健康生活を守るとともに地域連携・貢献を推進していくために、自己の知識や技術の向上を目指して主体的かつ探究的な姿勢をもつことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	60	-	-	-	60
	レポート	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	自己評価	5	-	5	-	10
	合計	75	10	5	10	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、レポート(1回) 20%、受講態度 10%、自己評価 10% の合計100%で評価を行う。欠席は原点とし、3回以上の欠席者には単位を与えません。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	森博美『急性中毒ハンドファイル』医学書院、2011年 中野哲、森博美『実践漢方ガイド』医学書院、2010年 必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1回	感染症に用いる薬剤について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、計算問題も理解することができる) [準備・課題]学習した内容を復習する。(3h)					
2回	排便障害に用いる薬剤について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な時実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(3h)					
3回	睡眠障害に用いる薬剤について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。レポート課題(過量投与を含む)を発表する。(3h)					
4回	漢方薬について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(3h)					
5回	痛みに用いる薬剤について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、麻薬の管理についてしっかり学ぶ) [準備・課題]学習した内容を復習する。(3h)					
6回	誤薬・過量投与に対する対応、薬の希釈や投与量の計算について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。レポートを提出する。(4h)					
7回	薬に重篤な副作用について学ぶ (一年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する) [準備・課題]学習した内容を復習する。(3h)					
8回	まとめを行う。 [準備・課題]総合的なまとめを復習する。(6~8)					
時間外での学習	[準備・課題]学習した内容を確実に復習する。質問があれば、授業終了後にどうぞ。					
受講学生へのメッセージ	実践で必ず役に立つ授業をとの思いと、国家試験での薬剤関連問題が理解しやすくなると思いますので、きっと毎回の授業が楽しくなります。オフィスアワーは授業がある毎週火曜日の16:30~17:30です。					

臨床病理学	看護学科		2年前期			
	1単位		講義	15時間		
[教員]：佐々 敏・曾根 孝仁						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	臨床病理学とは臨床の現場で重要な疾病の成り立ちとその病態を理解する学問です。学生諸君が学外実習に入る前に、比較的良好にみられる疾患を整理して実習に臨めるように配慮します。					
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。					
到達目標	1. [知識・理解] 看護師に必要な基礎知識を理解する。(◎) 2. [思考・判断・表現] コミュニケーション能力を養う。(△) 3. [技能] クラス編成(チーム)により、力を合わせることの意義を理解する。(△) 4. [関心・意欲・態度] 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	70	-	-	-	70
	レポート	-	5	5	5	15
	自己評価	-	5	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	70	10	5	15	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験、豆テスト) 70%、レポート 15%、学習成果の自己評価 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	デジタルナースィング・グラフィカ『健康の回復と看護(7)：疾病と治療』メディカ出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(曾根)	循環器疾患の病態と治療 I [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
2(曾根)	循環器疾患の病態と治療 II [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
3(曾根)	呼吸器疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
4(曾根)	内分泌疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
5(佐々)	免疫系疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
6(佐々)	消化管・消化器疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
7(佐々)	腎・尿路疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
8(佐々)	感染症・血液疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)					
時間外での学習	予習・復習に努めてください。					
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして 看護師に重要な疾患を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。オフィスアワーは毎週月曜日の16:20から17:30です。					

看護過程演習		看護学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：服部 直子・栗原 美和						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	看護実践の思考基盤となる看護過程を理解し、事例を用いて具体的な問題解決のプロセスを学びます。					
授業方法	テキストおよび配布資料を活用しながら、講義と個人ワーク、グループワークにより授業を展開します。					
到達目標	1. [知識・理解] 関連図や問題リストの作成方法、問題の優先順位について理解できる。(○) 2. [知識・理解] 看護実践の記録方法やアセスメントの視点を説明できる。(○) 3. [思考・判断・表現] アセスメントによって対象の全体像を把握し、看護上の問題を抽出できる。(◎) 4. [思考・判断・表現] 抽出した看護上の問題に対して看護計画の立案ができる。(◎) 5. [関心・意欲・態度] 主体的に学習に取り組むことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	30	50	-	-	80
	課題	-	10	-	-	10
	受講態度・課題提出状況	-	-	-	10	10
	合計	30	60	-	10	100
成績評価と割合	筆記試験 80%、課題 10%、受講態度・課題提出状況 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『基礎看護学③基礎看護技術』メディカ出版 『NANDA-I看護診断 定義と分類2015-2017 原書第10版』医学書院					
参考書・教材	必要時提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	看護過程の理解：アセスメントツール、共同問題・看護診断・看護ケア問題 [準備]1年次に学習した内容について復習する。(2h)					
2	事例1 事例の理解、病態の理解、ゴードンの機能的健康パターンを使用して情報の整理 [課題]アセスメントシートに情報を記載する。(2h)					
3	情報の分析①健康知覚・健康管理パターン、栄養・代謝パターン [課題]健康知覚・健康管理パターン、栄養・代謝パターンの分析を仕上げる。(1h)					
4	情報分析②排泄パターン、活動・運動パターン [課題]排泄パターン、活動・運動パターンの分析を仕上げる。(1h)					
5	情報分析③睡眠・休息パターン 他 [課題]睡眠・休息他のパターンの分析を仕上げる。(1h)					
6	事例関連図の作成、問題リスト [課題]関連図、問題リストを仕上げる。(1h)					
7	看護計画の立案：共同問題、看護診断、看護ケア問題 [課題]看護計画の立案を仕上げる。(1h)					
8	看護実践の記録：SOAP [課題]実践記録の方法を復習する。(1h)					
9	事例2 事例の理解、病態の理解、情報分析（グループワーク） [課題]グループで情報の整理と分析を行う。(2h)					
10	情報分析①（グループワーク） [課題]グループで情報分析について修正する。(1h)					
11	情報分析②（発表） [課題]グループで関連図を作成する。(2h)					
12	事例関連図（グループワーク） [課題]グループで関連図を仕上げ、問題リストを作成する。(1h)					
13	事例関連図、問題リスト（グループワーク） [準備]グループで看護計画を立案する。(2h)					
14	看護計画の立案（グループワーク） [課題]グループで看護計画を修正する。(2h)					
15	まとめ [課題]学んだ内容をまとめる。(2h)					
時間外での学習	個人ワーク、グループワークを計画的に進めてください。					
受講学生へのメッセージ	看護の基盤となる思考プロセスを習得していきます。苦手意識を克服して主体的に学習を進めてください。分からないところは遠慮なく質問してください。 オフィスアワー：毎週水曜日4・5限 319（服部）研究室					

看護過程実践実習		看護学科		2年前期		
		2単位		実習	90時間	
[教員]：服部 直子・松原 薫・栗原 美和						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を身につけていきます。また看護者に必要なコミュニケーションや観察の技術、また日常生活援助技術の向上を目指します。さらに、倫理的な態度を養うとともに自己の課題や看護観について考察を深めます。					
授業方法	大垣市民病院および博愛会病院の2施設で実習します。					
到達目標	1. [知識・理解] 対象の病態と治療について理解できる。(△) 2. [思考・判断・表現] 対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる。(◎) 実習を振り返り、自己の課題と看護観について説明できる。 3. [技能] 対象および対象をとりまく人々と良好なコミュニケーションをとることができる。(○) フィジカルアセスメントの技術を用いて患者の身体的情報を得ることができる。 安全・安楽に配慮して看護援助を実践できる。 4. [関心・意欲・態度] 対象を尊重し、謙虚な態度で臨むことができる。(○) 対象のプライバシーの保護に努め、個人情報を適切に取り扱うことができる。 主体的に学習に取り組むことができる。 指示された時間や方法に則って行動することができる。					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	実習記録・レポート	5	60	-	-	65
	看護実践	-	-	20	-	20
	実習態度	-	-	-	15	15
	合計	5	60	20	15	100
成績評価と割合	実習記録・レポート 60%、看護実践 20%、実習態度 20% の合計100%で評価します。					
テキスト	『NANDA-I看護診断 定義と分類2015-2017 第10版』医学書院					
参考書・教材	適宜提示する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	1. 実習時期：平成29年8月～9月（2週間） 2. 実習内容 1) 病院実習 ・入院患者1名を受け持ち、看護過程を展開し、看護援助を実践する。 [準備]事前に提示する課題に取り組む。(3h) 受け持ち患者の疾患・検査・治療・看護について調べる。(4h) [課題]毎日の実習内容はその日のうちに記録し、翌日までに指導を受ける。(2h/日) 2) 学内実習 ・病院実習前に、オリエンテーションおよび技術演習を実施する。 ・病院実習終了後、グループでのまとめおよび全体発表を行い、学びを共有する。 [準備・課題]実習を振り返り学びをまとめる。(4h) 詳細は実習オリエンテーションにおいて説明する。					
時間外での学習	既習の看護過程演習はもちろん1年次に学習した基礎看護技術論、生活援助技術論、治療支援技術論、フィジカルアセスメント演習の復習を十分に行って実習に臨んでください。特に、基本的な援助技術は確実に実施できるように、練習を重ねてください。					
受講学生へのメッセージ	体調管理を行い、遅刻・欠席することのないようにしてください。質問や相談等がある場合は、できるだけ実習中に対応できるように、早めに担当教員に報告・連絡してください。					



成人看護援助論(急性期)		看護学科		2年前期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]: 大澤 伸治・安藤 洋子						
[関連する資格・履修制限等]:						
授業内容	手術療法により侵襲を受ける対象の生命危機に対応するための看護及び回復期における看護について理解する。周手術期における看護の基本的な考え方と援助方法について、消化器疾患、運動器疾患などの手術療法を受ける対象及びその家族の身体的・精神的・社会的側面に対する援助方法を学ぶ。					
授業方法	急性期に特徴的な術後合併症に対する援助方法については映像やロールプレイを用いて学習する。急性期看護の考え方、看護過程の展開については紙面上の事例を用いてのグループワーク及び成果発表により学習する。					
到達目標	1. [知識・理解] 解剖生理学、病態学の知識をもとに科学的根拠をもって急性期の特徴的な援助方法を理解することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 急性期における対象及びその家族に対する看護過程を事例に基づいて展開することができる。(◎) 3. [関心・意欲・態度] グループワークにおいてチームの一員として主体的に看護過程の展開を整理することができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	40	20	-	-	60
	グループワーク・発表	-	20	-	10	30
	提出課題	-	-	-	10	10
	合計	40	40	-	20	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、グループワーク・発表 30%、提出課題 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	DIGITAL NURSINGRAPSICS メディカ出版					
参考書・教材	『人体の構造と機能からみた病態生理 ビジュアルマップ2 消化器疾患』医学書院 『病気がみえるvol. 1 消化器』MEDIC MEDIA					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	急性期看護のとは 生体侵襲と生体反応 (講義) [課題]急性期看護の定義、侵襲と生体反応について調べてまとめる (3~6h)					
2	開腹を必用とする全身麻酔管理下の手術療法の流れ (講義) [課題]一般的な外科的手術療法 (開腹術) の流れ、全身麻酔について調べてまとめる (3~6h)					
3	術後合併症の特徴 (講義) [課題]開腹手術後に起き得る合併症について調べてまとめる (3~6h)					
4	患者の意思決定と術前準備 (講義) [課題]対象とその家族の心理的側面、インフォームドコンセントについて調べてまとめる (3~6h)					
5	術直後の観察と回復期の援助 (講義) [課題]早期離床、患者教育について調べてまとめる (3~6h)					
6	事例展開① (情報分析) (講義) [課題]事例の整理 (3~6h)					
7	事例展開② (関連図・問題立案・優先順位の判断・CP/ND/NCの判断) (講義) [課題]事例の整理 (3~6h)					
8	事例展開③ (計画立案・実施と評価) (講義) [課題]事例の整理 (3~6h)					
9	看護過程の展開① グループワークによる事例展開 (GW) [課題]事例の整理 (3~6h)					
10	看護過程の展開② グループワークによる事例展開 (GW) [課題]事例の整理 (3~6h)					
11	看護過程の展開③ グループワークによる事例展開 (GW) [課題]事例の整理 (3~6h)					
12	看護過程の展開④ 成果発表 (グループワークで展開した事例についての発表) [課題]発表グループは発表の準備 (3~6h)					
13	看護過程の展開⑤ 成果発表 (グループワークで展開した事例についての発表) [課題]発表グループは発表の準備 (3~6h)					
14	看護過程の展開⑥ 成果発表 (グループワークで展開した事例についての発表) [課題]発表グループは発表の準備 (3~6h)					
15	単元のまとめ [課題]総合的なまとめの復習 (3~6h)					
時間外での学習	既習の知識については理解しているものとして講義を進めます。予習をして講義に臨んで下さい。					
受講学生へのメッセージ	3年次の成人看護学実習(急性期)の基盤となる講義です。主体的に学習して実習に繋がる知識を得ることができるよう講義に臨んでください。講義に関する質問については遠慮なく研究室(I号館323)を訪室してください。オフィスアワーは毎週月曜日の16時以降で設定します。実習で不在時には事前にアポイントをとって頂ければ調整します。					

成人看護学実習(慢性期)		看護学科		2年後期		
		3単位		実習	135時間	
[教員]： 棚橋 千弥子・安藤 洋子・大澤 伸治						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	慢性期及び慢性的な経過をたどる健康障害をもちながら生活する成人期の対象及びその家族を理解し、慢性的な健康問題をもつ成人患者及び家族に必要な看護を習得する。また、糖尿病等の慢性疾患患者のセルフケア能力を向上させるための教育方法を学ぶと共に、患者家族の価値観や意思を尊重し、希望を実現するための援助方法や、対象の権利擁護者としての看護師の役割を理解する。					
授業方法	少人数のグループとなって、.学外の各医療施設にて実習を行う。学生2名につき1人の患者を受け持ち、臨地の実習指導者ならびに大学教員の指導を受けて行う。					
到達目標	1. [知識・理解] 慢性期にある対象及びその家族の特性を理解できる。(◎) 2. [知識・理解] 患者家族(重要他者)の価値観や意見を尊重し、希望を実現するための援助方法や、対象の権利擁護者としての看護師の役割が理解できる。(◎) 3. [知識・理解] 受持ち患者を取り巻くすべての支援者との連携の重要性が理解できる。(◎) 4. [思考・判断・表現] 健康障害をもちながら生活する対象の退院後の生活を考慮した看護過程を展開できる。(◎) 5. [技能] 安全・安楽に配慮し、対象のセルフケア能力を考慮した援助を実施できる。(○) 6. [関心・意欲・態度] 看護チームの一員として自己の役割と責任を明確にすることができる。(○) 7. [関心・意欲・態度] 実践課題に対して倫理的配慮を行い、主体的に取り組むことができる。(○) 8. [関心・意欲・態度] 実践した看護を振り返り、自己の看護観を述べるができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	実習記録(提出物を含む)	40	30	-	-	70
	看護技術	-	-	15	-	15
	実習態度	-	-	-	15	15
	合計	40	30	15	15	100
成績評価と割合	実習記録 70%、看護技術 15%、実習態度 15% の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナーシンググラフィカ 1巻～25巻、27巻～30巻、37巻、39巻 メディカ出版					
参考書・教材	『看護診断ハンドブック』医学書院 『NANDA-I 看護診断 定義と分類2015-2017』医学書院					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	第1週 1. 学内実習 1) 成人看護学実習(慢性期)オリエンテーション 2) 慢性疾患患者の看護過程の展開と、慢性疾患患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワークと演習・ビデオ学習・文献学習で実習前の整理を行う。 2. 病棟実習 1) 慢性期に特徴的な診療場所について見学する。 2) 受け持ち患者の情報収集を行う。 第2週 1. 病棟実習 1) 学生2名で慢性的な健康問題を持つ患者1名を受持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受持ち患者の看護の方向性を把握し、情報収集、アセスメント、看護計画の立案、適切な看護援助を提供し、実施した援助について評価する。 2. 学内実習 1) 情報を整理し、計画を立案する。SOAPの整理を行う。 第3週 1. 病棟実習 1) 看護過程の展開を続け、自分の実践について評価する。 2) 看護過程について振り返り、看護サマリーをまとめてカンファレンスを行い、学びを共有する。 2. 学内実習 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、理論的にまとめて発表することにより学生間で学びを共有し、成人慢性期看護援助について考えを深める。 [課題]受け持ち患者の病態整理、標準看護ケアについて整理することや、慢性期看護の技術、看護過程の展開について十分予習をし、知識を実習で使えるように準備しておく。 (日により1時間から5時間ほど)					
時間外での学習	実習中に疑問に思ったことはその日のうちに解決し、次の日の実習にいかせるようにしてください。					
受講学生へのメッセージ	臨地における実習という経験は二度と体験しないことです。ひとつひとつの体験を大切にしてください。体調管理をしっかりおこなってください。実習中に困ったことは必ず教員や指導者に相談してください。					

老年看護援助論		看護学科		2年前期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]：吉川 美保・水上 和典						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	高齢者の特性の理解と、老年期に起こりやすい健康問題を多角的にとらえる思考を学ぶ。高齢者がその人らしく生活するあり方を目標に、高齢者のもてる力を維持・継続させ、看護を提供する目標思考型思考に基づき、看護過程の展開の方法を習得する。					
授業方法	テキスト、配布資料を用いて講義・演習を行う。適宜グループワークを取り入れ能動的学修とする。					
到達目標	1. [知識・理解] 高齢者の特性および健康問題に対する理解ができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 高齢者に生じやすい健康問題に対するアセスメント・展開方法を理解することができる。(◎) 3. [技能] 高齢者の健康問題に対する援助の必要性について理解できる(○) 4. [関心・意欲・態度] 老年看護に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、自己の考えを示すことができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	30	20	10	-	60
	課題	-	10	10	10	30
	講義の参加度	-	5	-	5	10
	合計	30	35	20	15	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、課題 30%、講義の参加度 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『老年看護学(1)：高齢者の健康と障害』メディカ出版 デジタルナースング・グラフィカ『老年看護学(2)：高齢者看護の実践』メディカ出版					
参考書・教材	佐々木英忠『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論』医学書院、2014 北川公子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学』医学書院 2014 山田律子『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』医学書院 2016					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	高齢者の生理的特徴・疾患をめぐる特徴 [準備・課題] これまでに学んだ高齢者の生理的特徴をまとめる (2h)					
2	老年看護の特徴 [準備・課題] 老年看護の成り立ち、老年看護の定義と役割についてまとめる (2h)					
3	高齢者の理解 (高齢者疑似体験) [準備・課題] 高齢者の身体の加齢変化についてまとめる (2h)					
4	高齢者の理解 (高齢者疑似体験) [準備・課題] 学んだ内容を復習し、高齢者の特徴を考えたコミュニケーションについてまとめる (2h)					
5	高齢者のアセスメント (健康・家族・基本動作と環境) [準備・課題] 高齢者の日常生活を支える基本的活動についてまとめる (2h)					
6	看護職が行うフィジカルアセスメント [準備・課題] これまで学んだ高齢者の身体の加齢変化を復習し、看護職が行うフィジカルアセスメントについてまとめる (2~3h)					
7	高齢者の看護過程の展開 (1) 脳血管疾患の情報収集とアセスメント [準備・課題] 脳血管疾患について病態生理・症状を復習し、看護の要点をまとめる (2~3h)					
8	高齢者の看護過程の展開 (2) 脳血管疾患の情報収集とアセスメント [準備・課題] 脳血管疾患事例の情報収集とアセスメントについてまとめる (2~3h)					
9	高齢者の看護過程の展開 (3) 脳血管疾患の計画立案と評価 [準備・課題] 脳血管疾患事例の看護の焦点と全体像をまとめる (2~3h)					
10	高齢者の看護過程の展開 (4) 脳血管疾患の計画立案と評価 [準備・課題] 脳血管疾患事例の看護計画の立案と評価についてまとめる (2~3h)					
11	生活行動モデルによる高齢者の看護過程の展開 (1) アセスメント [準備・課題] 提示事例のアセスメントについてまとめ (2~3h)					
12	生活行動モデルによる高齢者の看護過程の展開 (2) 看護の焦点と全体像 [準備・課題] 提示事例の看護の焦点と全体像についてまとめる (2~3h)					
13	生活行動モデルによる高齢者の看護過程の展開 (3) 看護計画の立案と評価 [準備・課題] 提示事例の看護計画の立案と評価についてまとめる (2~3h)					
14	生活行動モデルによる高齢者の看護過程の展開 (4) まとめ [準備・課題] 学んだ内容の復習 (2~3h)					
15	高齢者特有な看護過程の展開の理解 [準備・課題] 学んだ内容の復習 (2~3h)					
時間外での学習	[準備・課題] として示した内容を確実に学修しましょう。 高齢者に関する報道や書籍、映画などに日頃から関心を持って情報収集し、学習内容と関連させながら理解を深めてください。					
受講学生へのメッセージ	オフィスアワーを活用してください。(詳細は開講後にお知らせします)					

老年看護演習		看護学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：吉川 美保・水上 和典						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	高齢者の生活の質（Quality of Life:QOL）を尊重したケアを行うために必要な基礎的知識と看護技術について学び、高齢者を一人の人として統合的に理解し、尊厳をもって老年看護を展開する能力を養う。					
授業方法	テキスト、配布資料を用いて講義・演習を行う。適宜グループワークを取り入れ能動的学修とする。					
到達目標	1. [知識・理解] 高齢者の生活機能を整えるために必要な基礎的知識が理解できる (◎) 2. [思考・判断・表現] 高齢者の生活機能を整えるために必要な看護展開方法を理解することができる (◎) 3. [技能] 高齢者の生活機能を整えるために必要な援助技術の実践方法について理解できる (○) 4. [関心・意欲・態度] 老年看護に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、自己の考えを示すことができる。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	30	20	10	-	60
	課題	-	10	10	10	30
	講義の参加度	-	5	-	5	10
	合計	30	35	20	15	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、課題 30%、講義の参加度 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『老年看護学(1)：高齢者の健康と障害』メディカ出版 デジタルナーシング・グラフィカ『老年看護学(2)：高齢者看護の実践』メディカ出版					
参考書・教材	佐々木英忠『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論』医学書院, 2014 北川公子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学』医学書院, 2014 亀井智子『根拠と事故防止からみた老年看護技術』医学書院, 2016 中央法規東京都健康長寿医療センター看護部『写真でわかる高齢者ケア』インターメディカ, 2010					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	高齢者特有な看護過程の展開の理解 [準備・課題]学んだ内容を復習 (1h)					
2	高齢者の運動・睡眠・生活リズムの変調と看護 [準備・課題]高齢者の加齢に伴う基本動作、睡眠、生活リズムの変調についてまとめる (1h)					
3	高齢者の運動・睡眠・生活リズムの変調と看護 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
4	高齢者の食べる機能の変調と看護 [準備・課題]高齢者の摂食・嚥下機能の変調についてについてまとめる (1h)					
5	高齢者の食べる機能の変調と看護 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
6	高齢者の排泄機能の変調と看護 [準備・課題]高齢者の排泄機能の変調についてについてまとめる (1h)					
7	高齢者の排泄機能の変調と看護 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
8	認知症の特徴と認知症を有する高齢者のケア [準備・課題]認知症の定義、原因、認知機能障害と行動・心理症状についてまとめる (1h)					
9	認知症の特徴と認知症を有する高齢者のケア [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
10	急性期病院で治療をうける認知症高齢者のケア [準備・課題]認知症高齢者特有のアセスメントについてまとめる (1h)					
11	急性期病院で治療をうける認知症高齢者のケア [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
12	高齢者を支える社会制度 [準備・課題]地域包括ケアシステムについてまとめる (1h)					
13	高齢者を支える社会制度 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
14	生活・療養の場における看護 [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
15	高齢者のリスクマネジメント [準備・課題]学んだ内容の復習 (1h)					
時間外での学習	[準備・課題]として示した内容を確実に学修しましょう。 高齢者に関する報道や書籍、映画などに日頃から関心を持って情報収集し、学習内容と関連させながら理解を深めてください。					
受講学生へのメッセージ	オフィスパワーを活用してください。（詳細は開講後にお知らせします）					

老年看護学実習 I		看護学科		2年後期		
		2単位		実習	90時間	
[教員]：吉川 美保・古田 桂子・野網 淳子・水上 和典・栗原 美和・北村 美恵子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	健康障害のある高齢者および家族を総合的にとらえ、その人の価値観を尊重しながらQOL維持向上に向けた看護実践方法を習得する。					
授業方法	医療施設において実習を行う。学生1～2名につき1人の患者を受け持ち、臨地実習指導者ならびに教員の指導を受けて実習を行う。					
到達目標	1. [知識・理解] 老年期にある対象をあらゆる側面から総合的に理解できる。 (◎) 2. [思考・判断・表現] 健康問題に対するアセスメント、問題の明確化ができ、看護計画が立案できる。 (◎) 3. [技能] 個々の対象に応じた援助方法で看護実践ができる。 (○) 4. [関心・意欲・態度] 看護専門職となる学生としての立場で役割を果たすことができる。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	実習記録	30	20	5	-	55
	対象との関わり	-	20	10	-	30
	実習態度	-	-	-	15	15
	合計	30	40	15	15	100
成績評価と割合	実習記録 55%、対象との関わり 30%、実習態度 30% の合計100%で評価する。 ・老年看護学実習評価表に基づき評価する。 ・評価にあたっては臨地実習指導者の意見も参考にする。 ・提出物は指示期限内の提出を必須とする。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『老年看護学(1)：高齢者の健康と障害』メディカ出版 デジタルナースング・グラフィカ『老年看護学(2)：高齢者看護の実践』メディカ出版					
参考書・教材	佐々木英忠『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論』医学書院，2014 北川公子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学』医学書院，2014					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	〔学内実習〕 ・老年看護に必要な看護過程の展開、看護実践に必要な看護技術について復習する。 〔臨地実習〕 ・入院している高齢者を受け持ち、高齢者に応じたケアを実践していく中で、対象の健康上の問題を理解する。 ・対象の個性をふまえて計画立案、実践、評価を行う。 ・臨地実習指導者を中心として、段階を踏んだ看護技術指導を受ける。 ・対象を取り巻く保健医療福祉チームについて学び、連携・協働を理解する。 ・カンファレンスを通して学習体験を共有し、学びを深める。 〔課題〕 ・毎日の実習の振り返りを行う。 ・老年看護の目的、役割、看護過程の展開、高齢者を支援する制度について学んだ内容を復習、整理する。					
時間外での学習	既習の学習内容を復習・整理して実習に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	健康管理に努め、感染対策の正しい知識を持って実習に臨んでください。主体的・積極的に学び、学生ならではの看護体験をしましょう。オフィスアワーを活用してください。(後日、お知らせします)					

在宅看護概論		看護学科		2年前期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：古田 桂子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	在宅看護論を理解していくために不可欠なテーマについて学修します。在宅看護とは何か、施設内看護との違い、在宅看護に関連する制度やしきみ、在宅における看護師の役割などで構成されます。					
授業方法	講義中心に行いますが、グループワークや学生が調べてきたことを活用して授業を展開します。また、授業では質問を多く投げかけ、学生の意見を聞きながら授業をすすめるようにしていきます。					
到達目標	1. [知識・理解] 在宅看護の特徴と在宅看護を支える仕組みが理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 在宅看護における看護師の役割と、家族支援のあり方について考えることができる。(◎) 3. [技能] グループワークの中で、自分の考えをだして、自己の役割が果たせる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 在宅看護について興味を持ち、自ら学びを深めようと取り組める。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	40	32	-	-	72
	自己評価：グループワーク2回	-	-	10	-	10
	課題提出：2回	-	-	-	10	10
	受講態度（ミニレポート）	-	-	-	8	8
	合計	40	32	10	18	100
成績評価と割合	筆記試験 72%、自己評価 10%、課題提出 10%、受講態度 8% の合計100%で評価します。ミニレポートは毎回記入して提出してもらいます。欠席すればその分の点数はありません。技能点は、2回あるグループワークの取り組み姿勢で評価します。課題提出は2回あり、1課題5点満点で評価します。レポートや態度などの具体的な評価基準は授業で提示します。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『在宅看護論：地域療養を支えるケア』メディカ出版					
参考書・教材	授業で提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	①在宅看護とは、施設内看護との違いと特徴 ②在宅看護が必要になった社会的背景 [課題]学習したことの復習 (1h)					
2	在宅看護の対象についての特徴 [課題]学習したことの復習 (1h)					
3	在宅看護を支える仕組み：介護保険とケアマネジメント [準備・課題]介護保険とは(2～3h) 課題提出のこと (評価対象)					
4	在宅看護を支える仕組み：訪問看護に関する制度と訪問看護サービス [課題]学習したことの復習 (1h)					
5	①在宅ケアシステムの構成要素 ②チームケアと多職種との連携（グループワーク：取り組み姿勢を評価） [準備・課題]多職種・機関の役割（指定用紙に調べて記入してくる）課題提出のこと（評価対象）(2～3h)					
6	継続看護と退院支援・調整における看護の役割 [課題]学習したことの復習 (1h)					
7	家族の介護負担軽減するための訪問看護師の役割（グループワーク：取り組み姿勢を評価） [課題]学習したことの復習 (1h)					
8	①権利擁護と倫理 ②まとめ [課題]総合的なまとめを復習(3～5h)					
時間外での学習	授業内容の復習には力を入れてください。また、評価となる課題の実施については、参考文献の転記にとどまらず、自分が理解できるような工夫をしてください。					
受講学生へのメッセージ	毎回の授業の目標を理解して、その答えを時間内で理解できるように授業に参画してください。オフィスアワーは、授業日の12:20～13:00です。					

在宅看護援助論		看護学科		2年前期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]：北村 美恵子・古田 桂子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	在宅看護の対象である療養者と家族の特徴を理解し、在宅における支援の在り方と在宅看護を実践する看護師の役割について理解する。					
授業方法	講義とグループワークで構成します。グループワークでは、進行予定をグループで話し合い自主的な取り組みを大切にします。学生自身で調べた事柄を出し合って事例理解を深め、在宅看護のあり方を学びます。					
到達目標	1. [知識・理解] 1) 在宅で療養する対象への看護の在り方を考えることを通し、在宅看護の特徴を理解することができる。 2) 在宅における看護過程の特徴が理解できる。 (◎) 2. [思考・判断・表現] 1) 在宅療養者とその家族がもつ問題を理解し、看護援助を考えることができる。 (○) 2) 多職種との協働・連携の重要性を理解し、そのあり方について考えることができる。 (○) 3. [技能] 事例における看護に関して、グループメンバーと協力し、ワークを進めていくことができる。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 課題について積極的に取り組み、自己の考えや意見を述べて考えを深めようと努力ができる。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	45	15	5	-	65
	事前課題 (7回)	-	-	-	21	21
	課題レポート	-	14	-	-	14
	合計	45	29	5	21	100
成績評価と割合	筆記試験 65%、課題提出 35%の合計100%で評価します。事前課題 (7回) は授業を進めるうえで不可欠なものであるため、当日の提出がなければ評価しません。ワークを行う場合はその取り組み姿勢も評価します。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『在宅看護論：地域療養を支えるケア』メディカ出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	在宅における看護過程の特徴 (講義) [課題] 授業内容を復習する (0.5h)					
2	在宅における終末期にある療養者への看護 終末期看護とは、終末期におけるアセスメントの視点、家族支援のあり方 (講義) [事前課題] 事例の疾患を調べその病態をまとめる (2~3h) ※授業終了時に提出					
3	在宅における終末期にある療養者への看護 情報の分析 (個人ワーク) [事前課題] 情報の分析、問題の抽出 (2~3h) ※授業終了時に提出					
4	在宅における終末期にある療養者への看護 情報の分析、問題の抽出 (講義) [課題] 授業内容を復習する (情報分析の修正) (0.5h)					
5	在宅における終末期にある療養者への看護 関連図作成 (グループワーク)					
6	在宅におけるターミナル期にある療養者への看護 関連図作成 (グループワーク)					
7	在宅におけるターミナル期にある療養者への看護 看護計画 (講義) [事前課題] 看護計画の立案 (2~3h) ※課題は授業終了時に提出					
8	在宅におけるターミナル期にある療養者への看護 まとめ「終末期看護において大切なこと」※授業終了後にレポート提出					
9	難病にある療養者への看護 ALSとは、ALSにある人の苦悩 家族支援のあり方 (講義) [事前課題] ①ALSについて調べその病態をまとめる ②インターネットを活用してALSに罹患した人の日常生活と思いについて知り感想を書く (1~2h) ※課題は授業終了時に提出					
10	難病にある療養者への看護 多職種との協働、難病にある人を取り巻く社会福祉制度 (講義) [課題] 特定疾病医療費助成制度、重症障害者医療費助成制度について調べる (1h)					
11	難病にある療養者への看護 情報の分析、問題の抽出 (講義) [事前課題] 情報の分析、問題の抽出 (2~3h) ※課題は授業終了時に提出					
12	難病にある療養者への看護 関連図 (講義) [事前課題] 関連図の作成 (2~3h) ※課題は授業終了時に提出					
13	難病にある療養者への看護 看護計画 (講義) [事前課題] 看護計画の立案 (2~3h) ※課題は授業終了時に提出					
14	難病にある療養者への看護 まとめ「在宅における多職種との協働の必要性和訪問看護師の役割について」 ※授業終了後にレポート提出					
15	医療依存度の高い障害のある子どもと家族への援助 障害のある子どもを取り巻く社会制度 家族支援のあり方 (講義)					
時間外での学習	効果的に授業に臨むために課題を設けています。事前課題が多いため、確認して計画的に取り組んでください。					
受講学生へのメッセージ	興味をもって事例の展開をして、責任感を持って自から学びを深めてください。オフィスアワーは、授業日の12:20~13:00です。					

在宅看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：古田 桂子・北村 美恵子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	在宅看護で求められる技術について学修します。「在宅での療養者とその家族を支える生活援助」「在宅看護で求められる医療的技術」「快適な療養環境をサポートするための基礎知識」で構成されています。					
授業方法	演習やワークを多く取り入れて実施します。在宅看護における技術の特徴の理解が深められるよう、事前課題や体験をレポートするなど、学生が主体的に参画できるよう授業を展開していきます。					
到達目標	1. [知識・理解] 在宅における日常生活援助や医療技術の特徴が理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 在宅で求められる技術とその根拠が考えられる。(○) 3. [技能] 在宅における療養者と家族に対する看護技術の実践方法について学ぶ。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 在宅看護について関心を持ち、自ら学びを深めようと取り組むことができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	20	20	10	-	50
	事前課題 5回	-	-	-	20	20
	演習時レポート 6回	10	-	20	-	30
	合計	30	20	30	20	100
成績評価と割合	筆記試験 50%、事前課題 20%、演習時レポート 30% の合計100%で評価します。 ・事前課題は計5回あり、各4点満点です。 ・演習時レポートは、グループワークや演習で得た学びをレポートするもので計6回（各5点）あります。具体的な評価基準は授業の中で提示します。なお、演習が多いことに伴いレポート提出による評価も多くなるため、欠席するとその分の評価点がないので注意してください。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『在宅看護論：地域療養を支えるケア』メディカ出版					
参考書・教材	授業で提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	在宅看護におけるコミュニケーション・指導技術（講義） [準備・課題] 在宅看護論に関する講義内容の整理と復習（1h）					
2	訪問時のマナー（シミュレーション） *演習での学びを指定用紙にレポートして授業終了時に提出（評価対象） [課題] 授業内容の復習する（0.5h）					
3	①在宅療養における食生活の特徴 ②栄養に関するアセスメント（講義） [課題] 授業内容を復習する（0.5h）					
4	①在宅における経管栄養 ②胃ろうの管理（講義） [事前課題] 胃管での食事の援助と管理方法（評価対象） *コピーを用いても良いが必ず注釈などのコメントを加えること。（1～2h）					
5	在宅中心静脈栄養（講義） [事前課題] ①中心静脈栄養とは ②IVHの管理（評価対象） *コピーを用いても良いが必ず注釈などのコメントを加えること。（1～2h）					
6	安全な療養環境を守るためのケア：感染対策・事故防止等（講義・グループワーク） *グループワークを含む授業での学びを指定用紙に記入して授業終了時に提出（評価対象） [課題] 授業内容の復習する（0.5h）					
7	①在宅における排泄の特徴 ②排泄に関するアセスメント ③失禁への対応（講義） [課題] 授業内容の復習をする。（1h）					
8	①ストーマ ②在宅酸素療法（講義） [事前課題] 人工肛門造設術と術後管理について（評価対象） *コピーを用いても良いが必ず注釈などのコメントを加えること。（1～2h）					
9	①スキンケア（講義） ②ストーマパウチの扱い方（デモンストレーション・演習） *演習での学びを指定用紙にレポートして授業終了時に提出（評価対象） [課題] 前回の授業を復習する（1h）					
10	NPPV、酸素濃縮器の扱い（演習） *演習での学びを指定用紙にレポートして授業終了時に提出（評価対象）					
11	褥創予防、起居・移乗の介助（演習） *演習での学びを指定用紙にレポートして授業終了時に提出（評価対象） [事前課題] 褥瘡の発生要因と好発部位（評価対象） *コピーを用いても良いが必ず注釈などのコメントを加えること。（1～2h）					
12	片麻痺のある療養者の入浴介助（シミュレーション） *授業での学びを指定用紙にレポートして授業終了時に提出（評価対象）					
13	入浴可否のアセスメント（講義） [事前課題] 事前に配布された事例の病態について調べてくる。（評価対象） *コピーを用いても良いが必ず注釈などのコメントを加えること。（1～2h）					
14	在宅における終末時のケア（講義） [課題] 授業内容の復習をする（0.5h）					
15	在宅ケアにおける連携・報告（講義） [課題] 総合的なまとめを復習する（3～5h）					
時間外での学習	評価対象は筆記試験だけでなく課題提出による評価も多いため、事前にシラバス等で予定を確認して計画的に取り組んでください。					
受講学生へのメッセージ	臨床での看護との違いはどこかを意識して、授業に参画してください。オフィスアワーは、授業日の16:30～17:20です。					



小児看護学概論		看護学科		2年前期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：清水 美恵						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	子どもの成長・発達（身体的発達、認知的発達・社会的発達）や子どもの権利について学ぶ。さらに、小児に関する保健施策や健康障害に対する予防策についての学びから、子どもの健康維持・向上について考える。					
授業方法	講義を中心にを行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 子どもの成長・発達過程(形態・機能・心理・社会的特徴)とその評価方法を理解することができる。 小児看護における倫理、子どもの権利と擁護に関する法律を理解することができる。 小児に関する保健施策や健康障害に対する予防策について理解することができる。 (◎)					
	2. [思考・判断・表現] 小児看護の変遷、理念、目標について考えを深めることができる。 子どもの発達の特徴について理解を深め、その支援方法を考えることができる。 (○)					
	3. [関心・意欲・態度] 現代社会における子どもや家族を取り巻く諸問題や課題について関心をもち、積極的に学習することができる。 小児看護の対象である子どもに関心をもち、子ども観を深めることができる。 (△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	試験	60	-	-	-	60
	小テスト	10	10	-	-	20
	ワークシート	-	10	-	-	10
	出席および受講姿勢	-	-	-	10	10
	合計	70	20	-	10	100
成績評価と割合	試験 60%、小テスト 20%、ワークシート(成長・発達シート) 10%、受講姿勢(授業後の感想用紙) 10%の合計100%で評価します。 欠席と提出物の期限遅延は減点対象とします。					
テキスト	デジタルナースিং・グラフィカ『小児看護学(1)：小児の発達と看護』メディカ出版					
参考書・教材	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論』医学書院					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	小児看護とは（ガイダンス、小児看護の対象、小児看護の目的、など） 小児看護と法律・施策（子どもを取り巻く社会環境、子どもの権利、小児に関する法律など） [準備・課題]小児看護の対象や小児に関する法律、子どもの権利について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
2	乳児期の成長・発達と生活(1) (成長・発達の原理原則、乳児期の形態、身体生理など) [準備・課題]乳児期の身体的発達の特徴について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
3	乳児期の成長・発達と生活(2) (運動機能、感覚機能、知的・情緒、社会的機能、生活と養育など) [準備・課題]乳児期の運動機能、認知発達について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
4	幼児期の成長・発達と生活(1) (形態、身体生理、運動機能、情緒・社会的機能など) [準備・課題]幼児期の身体的発達の特徴について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
5	幼児期の成長・発達と生活(2) (生活と養育、安全と事故防止など) [準備・課題]幼児期の生活や事故防止、遊びの意義について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
6	学童期・思春期の成長・発達と生活(学童期の身体的特徴、心理・社会性の特徴、学童期の健康問題、思春期の身体的特徴、心理・社会性の特徴、学童期の健康問題など) [準備・課題]思春期の成長・発達の特徴について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
7	小児期の予防注射(免疫、ワクチン、予防接種、小児期の予防接種など) [準備・課題]小児期の感染予防対策について自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
8	試験 [準備・課題]小児看護における基礎的知識を自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
時間外での学習	[準備・課題]の内容を自分の言葉でまとめ、該当内容を理解して授業に参加してください。 また、十分に復習して理解を深めてください。					
受講学生へのメッセージ	子どもの成長・発達に関心・興味をもち、子どもの健康的な生活について考えを深めてください。 オフィスアワーは、1号館325研究室 木曜日16:30~17:30					

小児看護援助論		看護学科		2年後期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]：清水 美恵・鉾原 直美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	小児に出現しやすい疾患および診断・治療に関する基礎知識を学び、子どもの成長・発達の特徴を理解し、小児とその家族に必要な看護援助を習得する。					
授業方法	講義を中心にを行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護を理解することができる (◎) 小児に多い疾患・症状・治療について理解することができる 2. [思考・判断・表現] 病気をもつ子どもやその家族の権利や尊厳について考えることができる (○) 病気をもつ子どもやその家族の援助方法について考えることができる 3. [技能] 健康障害をもつ子どもとその家族の看護支援における多職種との連携の必要性を理解し、看護職の役割を理解することができる。 (△) 4. [関心・意欲・態度] 病気をもつ子どもとその家族に関心を持ち、積極的に学修することができる。 (△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	50	-	-	-	50
	小テストおよびレポート	10	20	10	-	40
	出席および受講姿勢	-	-	-	10	10
	合計	60	20	10	10	100
成績評価と割合	筆記試験 50%、小テストおよびレポート 40%、受講姿勢(授業後の感想用紙) 10% の合計100%で評価します。 欠席と提出物の期限遅延は減点対象とします。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『小児看護学(1)：小児の発達と看護』メディカ出版					
参考書・教材	必要時、授業で提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	健康障害をもつ子どもとその家族への看護 (ガイダンス、小児のフィジカルアセスメント、小児看護学概論の復習など) [準備・課題]子どもの成長・発達について自分が理解できるようにまとめる(2h)					
2	健康障害と入院が小児とその家族に及ぼす影響と看護 (子どもの病気の理解、病気や入院による子どもとその家族への影響など) [準備・課題]健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす心理的影響について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
3	急性期にある小児と家族への看護① (急性期にある子どもと家族の特徴、発熱時のアセスメントと看護、脱水時のアセスメントと看護) [準備・課題]急性期にある小児と家族の特徴・必要な看護について自分が理解できるようにまとめる(2h)					
4	急性期にある小児と家族への看護② (けいれんのアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護) [準備・課題]熱性けいれんの観察・ケア・指導について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
5	小児に多い感染疾患と看護(感染性胃腸炎、ムンプス、麻疹、風疹、水痘、百日咳など) [準備・課題]小児に多い感染疾患の感染経路、症状の経過について予防接種と関連させて、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
6	小児に多い呼吸器疾患と看護(気管支炎、肺炎、など) [準備・課題]気管支炎の病態、発作の分類による症状、治療について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
7	周手術期にある小児と家族への看護① (子どもの手術や集中治療の特徴、手術や集中治療を受ける子どもや家族の看護など) [準備・課題]手術を受ける子どもへの援助について発達期別に、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
8	周手術期にある小児と家族への看護② (心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、ファロー四徴症、川崎病など) [準備・課題]川崎病の病態、症状、看護について自分が理解できるようにまとめる(2h)					
9	精神発達障害、心身障害と看護(自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害、摂食障害など) [準備・課題]自閉症の援助について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
10	慢性期にある小児と家族への看護①(慢性期の特徴、慢性期にある子どもと家族を支援する看護など) [準備・課題]慢性期の子ども発達課題の取組みについて、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
11	慢性期にある小児と家族への看護②(糖尿病、ネフローゼ症候群など) [準備・課題]糖尿病の病態、症状、看護について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
12	慢性期にある小児と家族への看護③(アレルギー性疾患) [準備・課題]気管支喘息の病態、発作の分類による症状、治療について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
13	終末期にある小児と家族への看護(終末期にある子どもの身体徴候、緩和ケア、家族への援助など) [準備・課題]終末期の子どもとその家族の看護援助について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
14	ハイリスク新生児の特徴と看護(新生児の特徴、ハイリスク新生児の特徴など) [準備・課題]呼吸窮迫症候群の病態、診断、治療、看護についてまとめる(2h)					
15	在宅、外来における小児と家族への看護 (外来看護の役割、小児外来の環境、小児在宅医療の意義、在宅医療を行う子どもと家族への看護など) [準備・課題]外来看護の役割について、自分が理解できるようにまとめる(2h)					
時間外での学習	[準備・課題]の内容を自分の言葉でまとめ、該当内容を理解して授業に参加してください。また、十分に復習して理解を深めてください。					
受講学生へのメッセージ	小児看護学概論での学びを生かし、さらに、次の小児看護演習へつなげる学修を期待します。 オフィスアワーは、1号館325研究室 木曜日16：30～17：30					

小児看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]： 鯨原 直美・清水 美恵						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	ここでは既習の小児看護学概論・小児看護援助論を統合し、小児看護を実践する上で必要な看護過程の展開方法について学びます。健康障害をもつ小児の事例から、アセスメント・問題抽出・看護計画の立案だけでなく、入院や健康障害が小児とその家族に及ぼす影響と成長発達段階を踏まえた看護過程の展開方法を習得することを目標とします。					
授業方法	テキストおよび配布資料を活用し、講義・自己学習・ロールプレイなどを取り入れてペーパーペイシェントの事例展開を行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 事例の患児の病態を症状・データをもとに説明することができる。 (◎) 2. [知識・理解] 健康障害をもつ患児・家族の特徴について説明することができる。 (◎) 3. [思考・判断・表現] 事例の患児の成長発達段階と健康障害・入院が与える影響についてのアセスメントし、問題が抽出できる。 (◎) 4. [技能] 成長発達段階や病状に応じた看護計画が立案できる。ロールプレイをもとに経過記録が記述できる。 (○) 5. [関心・意欲・態度] 課題に意欲的に取り組むことができる (△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	課題レポート	30	32	-	-	62
	ロールプレイング	-	-	24	-	24
	課題提出	-	-	-	14	14
	合計	30	32	24	14	100
成績評価と割合	課題レポート(毎回) 62%、ロールプレイング(1回) 24%、課題提出 14% の合計100%で評価します。課題提出期限が守れなかった場合、減点します。3分の1以上欠席した場合、単位修得はできません。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ 31巻・32巻・33巻メディカ出版					
参考書・教材	『NANDA - I 看護診断 定義と分類 2015-2017』医学書院、2014 『発達段階からみた小児看護過程』医学書院					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	小児看護における看護過程の特徴 入院が患児・家族に与える影響、必要な看護 [準備・課題]看護診断についての学習 (1h)					
2	小児看護におけるアセスメントの視点① 小児でよく使用する看護診断 パターン1～3 [準備・課題]小児でよく使用する看護診断 課題プリントの記入 (1h)					
3	小児看護におけるアセスメントの視点② 小児でよく使用する看護診断 パターン4～8 [準備・課題]小児でよく使用する看護診断 課題プリントの記入 (1h)					
4	事例1の看護展開① 情報の整理 [準備・課題]病態分析・アセスメントシートに情報を記入 (3h)					
5	事例1の看護展開② 情報分析と問題抽出の実際 パターン1～3 [準備・課題]アセスメントシート パターン1～3の分析・問題抽出 (2h)					
6	事例1の看護展開③ 情報分析と問題抽出の実際 パターン4～8 [準備・課題]アセスメントシート パターン4～8の分析・問題抽出 (2h)					
7	事例1の看護展開④ 問題リストと看護計画立案 [準備・課題]問題リスト作成・看護計画立案 (2h)					
8	事例1の看護展開⑤ 看護の実際 ロールプレイング [準備・課題]看護計画立案・ロールプレイングの準備 (2h)					
9	事例1の看護展開⑥ 看護の実際 ロールプレイング [準備・課題]ロールプレイングの様子からSOAPを記述・看護計画修正 (2h)					
10	事例2の看護展開① 情報分析と問題抽出の実際 パターン1～3 [準備・課題]事例2の病態分析・アセスメントシートに情報記入 (3h)					
11	事例2の看護展開② 情報分析と問題抽出の実際 パターン1～3 [準備・課題]アセスメントシート パターン1～3の分析・問題抽出 (2h)					
12	事例2の看護展開③ 情報分析と問題抽出の実際 パターン4～8 [準備・課題]アセスメントシート パターン4～8の分析・問題抽出 (2h)					
13	事例2の看護展開④ 情報分析と問題抽出の実際 パターン4～8 [準備・課題]アセスメントシート パターン4～8の分析・問題抽出 (2h)					
14	事例2の看護展開⑤ 問題リストと看護計画立案 [準備・課題]問題リスト作成・看護計画立案 (2h)					
15	事例2の看護展開⑥ 問題リストと看護計画立案 発表 まとめ [準備・課題]看護計画修正 (1h)					
時間外での学習	小児の看護展開では、子どもの成長発達・小児疾患に関する知識が必要不可欠です。それらについて復習し、不十分な場合は自己学習を行い、講義・演習に臨みましょう。					
受講学生へのメッセージ	この演習での学びが小児看護学実習につながります。実習で看護展開ができるよう意欲的に取り組んでください。 オフィスアワーは、毎週金曜日13:00～14:00 I号館106研究室で行います。					

母性看護学概論		看護学科		2年前期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：大法 啓子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	母性機能、母性を取り巻く社会環境および母性看護の役割について学ぶ。リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性のライフサイクルに応じた各時期における対象の健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復に関する看護を学び、次世代の健康に受け継がれていく女性の健康について考える。					
授業方法	配布資料とテキストを使用して、講義を中心として進める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>[知識・理解] 母性の概念と母子保健の現状について理解する。女性の性と生殖の資質に関わる生物学的構造と機能について理解する。生殖機能の成熟過程とその影響要因および逸脱について理解する。女性のライフステージ(思春期・成熟期・更年期・老年期)における身体機能と構造の変化について理解する。(◎)</li> <li>[思考・判断・表現] 女性のライフサイクルからみた健康問題について自己の考えを持つことができる。女性のライフステージにおけるヘルスケアについて自己の考えを持つことができる。特別な支援を要する女性の健康問題とその支援方法について自己の考えを持つことができる。健康な女性のより望ましい生き方とその環境について自己の考えを持つことができる。(○)</li> <li>[技能] 母性を取り巻く現代の社会環境から母性看護に関わる他職種や連携が認識できる。(○)</li> <li>[関心・意欲・態度] 母性を取り巻く現代の社会環境や女性のライフサイクルに関心を持ち、積極的に学習することができる。(○)</li> </ol>					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	50	10	10	-	70
	レポート	-	10	5	5	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	50	20	15	15	100
成績評価と割合	筆記試験 70%、レポート 20%、受講態度 10% で評価する。欠席と提出物の期限遅延は減点対象とする。					
テキスト	デジタルナースンググラフィカ『母性看護学(1)：母性看護実践の基本』メディカ出版					
参考書・教材	『病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版』メディックメディア 『<系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 母性看護学[2] 母性看護学各論』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	母性看護学概論ガイダンス、母性看護学の概念1 ・母性とは ・母性看護の対象と目的 ・母性看護の視点(リプロダクティブヘルス/ライツ) [準備・課題]「母性とはどのようなものか」について自分なりの考えが述べられるようまとめる。(2h)					
2	母性看護学の概念2 ・母親役割、愛着理論 ・母性看護学の基盤となる理論 ・セルフケアとヘルスプロモーション ・危機、喪失理論 [準備・課題]3「母性看護で用いられる理論」の最終ページの重要用語の意味を調べ、自分が理解できるようにまとめる。(2h)					
3	母子保健統計、母性看護と法律・施策 ・母性看護の変遷 ・母子保健統計の動向 ・母性看護における法的倫理的責任 ・母性看護における倫理 [準備・課題]④4「母子保健統計」5「母性看護と法律・施策」の最終ページの重要用語の意味を調べ、自分が理解できるようにまとめる。②出生率・合計特殊出生率・死産率・周産期死亡率についての計算式および最新データを調べる。(3h)					
4	母子に関わる社会資源とその活用/セクシャリティ、人の発生、性周期とホルモン① ・母性と就労 ・母性看護の対象を取り巻く環境 ・セクシャリティとは ・人間の性反応 ・受精のメカニズム [準備・課題]①6「セクシャリティ」7「人の発生」の最終ページの重要用語の意味を調べ、自分が理解できるようにまとめる。②女性の外生殖器(外陰部・乳房)、内生殖器(卵管・卵巣・子宮・膣)と男性生殖器の解剖と生理について調べ、自分が理解できるようにまとめる。(4h)					
5	セクシャリティ、人の発生、性周期とホルモン② ・受精のメカニズム(復習) ・器官発生メカニズム ・性周期とホルモン ・受胎のメカニズム [準備・課題]①8「性周期と生殖機能」の最終ページの重要用語の意味を調べ、自分が理解できるようにまとめる。指定の重要用語の意味を調べ、自分が理解できるようにまとめる。②月経周期に関与する主なホルモンと性周期における下垂体・卵胞・卵巣・子宮内膜・基礎体温の変化について調べ、自分が理解できるようにまとめる。(3h)					
6	思春期・成熟期女性の理解とその看護 ・加齢と生殖機能(思春期、性成熟期の変化) ・生殖機能の疾病 ・性感染症 [準備・課題]事例を読んで自分の考えを述べる。(1h)					
7	更年期・老年期女性の理解とその看護 ・更年期女性の健康と看護(心身の変化、健康問題) ・更年期女性への看護の視点 ・老年期女性の健康と看護 ・老年期女性への看護の視点 [準備・課題]事例を読んで自分の考えを述べる。(1h)					
8	特別な支援を要する女性の理解と看護 ・DVと看護ケア ・性暴力と看護ケア ・児童虐待 ・女性の健康と国際化、在日外国人の母子保健 [準備・課題]事例を読んで自分の考えを述べる。(1h)					
時間外での学習	授業の各回で予習形式の課題を出します。その項目は単に調べて書くだけではなく、自分がいかに理解がしやすいかの努力をするようにしてください。たとえば、その項目に関する過去の国家試験問題を解いてみることやその項目に関連する資料を探す、図解で示すようにし、知識を広げること努めて下さい。					
受講学生へのメッセージ	本科目はこれからの女性のライフサイクルにおいていかに健康的な生活が大切であることを、講義を通して自身に問いかけながら、将来の生活設計に反映できる授業です。オフィスアワーは講義終了後1時間とします。					

母性看護援助論		看護学科		2年前期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]：大法 啓子・浜口 里美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、妊産褥婦と新生児およびその家族に対する看護援助について学習する。また、ハイリスク状態、または正常から逸脱した状態にある妊産褥婦と新生児の看護に必要な知識を学習する。					
授業方法	配布資料とテキストを使用して、講義を中心として進める。					
到達目標	1. [知識・理解] 正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の身体的・心理的・社会的特徴についての知識をもつことができる。正常から逸脱した場合の妊娠期・分娩期・産褥期・新生児に関する知識をもつことができる。妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児への援助方法を理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児への援助方法について考えることができる。周産期の母子を通して生命の尊重と人間尊重について自己の考えを持つことができる。(○) 3. [技能] 周産期における対象の看護支援における他職種との連携の必要性を理解し、看護職の役割を認識できる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 周産期における母子に関心を持ち、積極的に学習できる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	60	10	-	-	70
	レポート・課題	-	10	10	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	60	20	10	10	100
成績評価と割合	筆記試験 70%、レポート・課題提出 20%、受講態度(毎回の感想用紙提出) 10% の 合計 100% で評価。欠席と提出物の期限遅延は減点対象とする。					
テキスト	デジタルナースンググラフィカ『母性看護学(1)：母性看護実践の基本』メディカ出版					
参考書・教材	『病気がみえる vol.10 産科 第3版』メディックメディア 佐世正勝・石村由利子/編『ウエルネスからみた 母性看護過程+病態関連図(第3版)』医学書院 仁志田博司『新生児学入門(第4版)』医学書院					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	不妊治療の実際と対象への看護(講義・グループディスカッション) [準備・課題]不妊の原因と治療について調べてまとめる。(1h)					
2	妊娠期の身体的特徴 [準備・課題]妊娠に伴う生殖器和全身の変化について調べてまとめる。(1h)					
3	妊娠期の心理・社会的特徴 [準備・課題]妊娠各期の心理的变化について調べてまとめる。(1h)					
4	妊婦と家族への看護(アセスメント・母子保健サービスの活用・健康診査) [準備・課題]妊娠経過における健康診査の内容について調べる。 妊婦が活用できる母子保健サービスについて調べてまとめる。(3h)					
5	妊婦と家族への看護(生活指導・親になるための準備) [準備・課題]妊娠期の生活(食事・排泄・活動)への看護について調べてまとめる。(2h)					
6	異常妊娠と看護 (ハイリスク妊娠・感染症・妊娠疾患・多胎妊娠・持続期間の異常・子宮外妊娠・血液型不適合妊娠) [準備・課題]異常妊娠(妊娠高血圧症候群・妊婦と感染症)について調べてまとめる。(2h)					
7	分娩の経過と看護 分娩の要素と経過 産婦の特徴 [準備・課題]分娩の3要素と分娩1期～4期について調べてまとめる。(1.5h)					
8	分娩の異常と看護(胎位異常・娩出力の異常・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・分娩時の出血) [準備・課題]前置胎盤・常位胎盤早期剥離について調べてまとめる。(2h)					
9	産褥の経過と産褥期の身体的・心理社会的特徴 [準備・課題]産褥期の子宮復古の経過について調べてまとめる。(1h)					
10	産褥期の看護 セルフケアの不足に対する援助・母子の愛着形成への援助・育児技術獲得への援助 [準備・課題]産褥期の心理について調べてまとめる。(1h)					
11	異常産褥と看護(子宮復古不全・産褥期の発熱・乳房トラブル) [準備・課題]子宮復古不全の原因と症状を調べてまとめる。(1h)					
12	新生児の生理的特徴(新生児の定義・生理的特徴) [準備・課題]新生児の呼吸器・循環器・消化器・体温調節・免疫・肝機能・腎機能について調べてまとめる。(3h)					
13	新生児の看護 [準備・課題]前回の講義内容を復習して授業に臨む。(1h)					
14	新生児の異常と看護(低出生体重児・分娩外傷・高ビリルビン血症) [準備・課題]低出生体重児の身体的特徴を調べてまとめる。(1.5h)					
15	帝王切開術をうける母親への看護(手術の適応・術前術後の看護) [準備・課題]帝王切開術の適応について調べてまとめる。(1.5h)					
時間外での学習	授業の各回で予習形式の課題を出します。援助論の課題用のノートを作成し、課題を行って下さい。項目は単に調べて書くだけではなく、自分がいかに理解がしやすいかの努力をするようにしてください					
受講学生へのメッセージ	本科目は周産期にある女性と新生児、その家族の援助ができるよう、基礎的な知識を学びます。周産期に起こりうるハイリスク状態や異常な状態にある母子とその家族への援助について学習します。生命の尊重や慈しみ、家族の在り方など自身の生育環境を振り返りながら研鑽できる有意義な講義です。オフィスアワーは講義後1時間とします。					

母性看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：戸村 佳美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	母体の健康は次世代の健康に大きく影響する。周産期における母体内、母体の現象、新生児の状態を正しく把握するためのエビデンスに基づいた看護技術の習得と看護過程の事例展開を行う。					
授業方法	配布資料とテキストおよび視聴覚教材を使用して、講義と演習、看護過程の個人ワークを組み合わせる。					
到達目標	1. [知識・理解] 妊産褥婦および新生児特有の生理的变化についての知識を持ち、エビデンスに基づいた看護技術が理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 妊産褥婦および新生児特有の生理的变化についての知識を持ち、紙上事例の全体像が捉えることができる。紙上事例の持つ看護問題を明確にできる。妊産褥婦および新生児特有の生理的变化についての知識を持ち、母性看護に必要な教育的援助について考え、援助について計画ができる。(◎) 3. [技能] 妊産褥婦および新生児特有の生理的变化についての知識を持ち、エビデンスに基づいた看護技術を身につけることができる。母性看護実践に必要なコミュニケーション能力・観察力を身につけることができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 母性看護特有の看護技術に関心を持ち、積極的に学習することができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	課題	20	20	10	-	50
	技術演習	10	10	20	-	40
	受講姿勢	-	-	-	10	10
	合計	30	30	30	10	100
成績評価と割合	課題 50%、技術演習 40%、受講姿勢 10% の合計100%で評価する。欠席と提出物の期限遅延は減点対象とする。					
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ『母性看護学(2)：母性看護技術』メディカ出版					
参考書・教材	石村由利子 編『根拠と事故防止からみた母性看護技術』医学書院 佐世正勝 他『ウェルネスからみた母性看護過程』医学書院					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	母性看護学演習ガイダンス ハイリスク新生児・周産期の死における家族への看護(講義・グループディスカッション) [準備・課題]①課題プリント「もし自分が生まれたばかりの赤ちゃんを亡くしたら」 ②動画集視聴：「不妊治療」「生殖医療チーム」(2h)					
2	妊婦の看護に関わる看護技術(講義・DVD) ・妊娠期における看護技術：①胎児心音聴取 ②レオポルド触診法 ③腹囲測定、子宮底測定 ④乳房の手当て(乳房マッサージ) [準備・課題]課題ノートまとめ：妊娠期の胎児発育、胎児の胎位・胎向、妊娠に伴う全身・生殖器の変化(3h)					
3	妊婦の看護に関わる看護技術(演習) ・妊娠期における看護技術演習：①胎児心音聴取 ②レオポルド触診法 ③腹囲測定、子宮底測定 ④乳房の手当て(乳房マッサージ) [準備・課題]動画集視聴：「触診」「計測法」 講義資料を参考にして、技術の復習をしておく。(1.5h)					
4	褥婦の看護に関わる看護技術(講義・DVD) ・産褥期における看護技術：①子宮復古の観察 ②悪露の観察と交換 ③授乳の援助技術(マッサージ・授乳姿勢・搾乳) [準備・課題]課題ノートまとめ：子宮復古の機序、悪露の性状と変化、母乳分泌の機序と母乳育児を促す看護(3h)					
5	褥婦の看護に関わる看護技術(演習) ・産褥期における看護技術：①子宮復古の観察 ②悪露の観察と交換 ③産褥体操 ④授乳の援助技術(マッサージ・授乳姿勢・搾乳) [準備・課題]講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h)					
6	新生児の看護に関わる看護技術(講義・DVD) ・新生児の看護に関わる看護技術：①分娩期における看護技術(アプガースコア採点、点眼、計測、保温) ②バイタルサインの測定 ③抱き方と排気方法 ④清潔援助(沐浴と手順・手技) ⑤おむつ交換 ⑥衣類の着脱 [準備・課題]課題ノートまとめ：新生児の生理的特徴(呼吸、循環、体温、肝機能、腎機能、消化、免疫、神経)(3h)					
7	新生児の看護に関わる看護技術1(演習) ・新生児の看護に関わる看護技術：①バイタル測定 ②身体計測 [準備・課題]講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h)					
8	新生児の看護に関わる看護技術2(演習) ・新生児の看護に関わる看護技術：①沐浴 ②おむつ交換 ③衣類の着脱 [準備・課題]講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h)					
9	母性看護における看護過程1(講義・グループワーク) ・ウェルネス思考と看護援助 ・産褥期の情報の整理 [準備・課題]事例1の情報について情報を整理する。(3h)					
10	母性看護における看護過程2(講義・グループワーク) ・産褥期の母子の事例について情報の整理 ・グループワークの発表 [準備・課題]事例1について、前回のグループワークで学んだことを参考にして情報の整理を完成する。(3h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
11	母性看護における看護過程 3 (講義・グループワーク) ・情報のアセスメント [準備・課題] 事例 1 の情報が、正常から逸脱していないか、必要な看護を考えアセスメントする。(3h)
12	母性看護における看護過程 4 (講義・グループワーク) ・看護診断の抽出と看護計画 [準備・課題] 事例 1 の情報から、看護診断を抽出する。(1h)
13	母性看護における看護過程 5 (グループワーク) ・産褥期の情報の整理 ・情報のアセスメント [準備・課題] 事例 2 の情報について情報を整理し、アセスメントする。(3h)
14	母性看護における看護過程 6 (講義・グループワーク) ・看護診断の抽出 ・看護計画 [準備・課題] 事例 2 の情報について看護診断抽出・看護計画立案を行う。(3h)
15	母性看護演習のまとめ(講義・演習) ・看護計画の発表とロールプレー [準備・課題] グループ毎に、発表の準備を行う。(2h)
時間外での学習	今まで学んだ母性の知識を統合して技術を獲得していくため、[準備・課題]にしっかり取り組みましょう。
受講学生へのメッセージ	母性看護演習では、実習で実際に母子に提供する技術を中心に学びます。 オフィスアワーは毎週水曜日の10時～12時です。

精神看護学概論		看護学科		2年前期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：酒井 和美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	精神看護学では精神的に健康な人々から精神に障害をきたした人までを対象にしている。精神の機能と障害の知識を基に、成長発達段階及び生活の中での精神の危機的状況（思春期、青年期、壮年期、老年期、感情障害、いじめ、不登校、自殺等）と援助のあり方について学ぶ。また精神保険福祉法や精神保健に関する法制度やその変遷、精神障害の歴史を学び、精神看護の理解を深める。					
授業方法	テキストや参考資料を用いて講義中心に行う。 授業内容によってグループワークを適宜実施する。					
到達目標	1. [知識・理解] 成長発達段階や危機的状況の基本的知識および精神保健のニーズや課題と精神保健福祉対策の法制度の内容や変遷を関連づけて理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] ライフサイクルにおける危機やさまざまな精神障害の症状の捉え方が理解できる。(○) 3. [技能] 精神看護における他職種との連携や協働の必要性が理解できる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 精神看護について関心をもち、自己の考えを示すことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	50	20	10	-	80
	レポート	5	5	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	55	25	10	10	100
成績評価と割合	筆記試験 80%、レポート 10%、受講態度 10% の合計100%で評価する。					
テキスト	デジタルナースィング・グラフィカ『精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版					
参考書・教材	『系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学①』医学書院 必要な資料は配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	こころの健康と精神障害のとらえ方と現代の精神看護のニーズ。 [準備・課題]精神疾患と精神看護のニーズの背景を考え、まとめる。(3h)					
2	人間のこころと行動（こころの危機とストレス理論など） [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
3	人生各期の発達課題・ライフサイクルとメンタルヘルス [準備・課題]精神の発達課題と危機について学んだ内容の復習。(3h)					
4	現代社会とこころの問題 [準備・課題]関心をもった現代社会のこころの健康問題とその背景を考え、まとめる。(3h)					
5	精神症状と精神疾患 [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
6	家族と健康 [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
7	精神保健福祉をめぐる法制度（精神医療領域に必要な法律と制度） [準備・課題]学んだ内容の復習と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の人権を守る規定をまとめる。(3h)					
8	精神保健福祉行政の歴史と保健医療福祉対策の現状及び課題 [準備・課題]精神障害者の治療と人権の歴史をまとめる。(3h)					
時間外での学習	準備や課題に示した内容は確実に学習し記録を残してください。					
受講学生へのメッセージ	オフィスアワーは、月曜日と金曜日の16：20～17：00です。					



精神看護援助論		看護学科		2年前期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]：酒井 和美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	代表的な精神症状や問題行動、精神疾患をもつ患者・家族への生活援助方法、並びに診断・治療への援助として薬物療法、精神療法等の主な治療に伴う看護、精神保健福祉活動と看護の役割、リハビリテーションの展開について学ぶ。また倫理的問題や福祉関連法規について学ぶ。					
授業方法	テキストや参考資料を用いて講義中心に行う。看護に必要な知識を具体的に理解できるよう、適宜DVDの視聴を取り入れながら授業を進める。					
到達目標	1. [知識・理解] 精神看護を理解するうえで必要となる基本的知識が理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 精神看護における援助技術の実際が理解できる。(○) 3. [技能] 他職種との連携や協働のありかたと看護の役割を考えることができる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 授業に積極的に参加し、精神看護について自己の考えや意見を示すことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	50	20	10	-	80
	レポート	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	60	20	10	10	100
成績評価と割合	筆記試験 80%、レポート 10%、受講態度 10% の合計100%で評価する。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『精神看護学(2)：精神障害と看護の実際』メディカ出版					
参考書・教材	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の実際』医学書院 必要な資料は配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	精神看護援助論講義の概要説明 [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
2	精神看護における対象の理解 [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
3	精神看護における対象の理解(精神を病む体験を理解する) [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
4	精神看護におけるケアの方法 [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
5	服薬治療にかかわる援助 [準備・課題]服薬治療と看護についてまとめる。(3h)					
6	ストレスマネジメント・精神専門看護師(看護師のメンタルヘルスクア等) [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
7	精神障害と看護の実際<統合失調症(急性期・慢性期)> [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
8	精神障害と看護の実際<感情障害> [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
9	精神障害と看護の実際<神経症・パーソナリティ障害> [準備・課題]学んだ内容の復習。(3h)					
10	精神障害と看護の実際<広汎性発達障害・摂食障害・被虐待> [準備・課題]学んだ内容を復習。(3h)					
11	精神障害と看護の実際<神経症・薬物依存> [準備・課題]学んだ内容を復習。(3h)					
12	看護倫理と入院生活<入院における権利擁護> [準備・課題]入院生活における人権擁護についてまとめる。(3h)					
13	看護倫理と地域生活<地域生活における権利擁護> [準備・課題]障害者総合支援法、精神保健及び精神障害者福祉」に関する法律を復習。(3h)					
14	精神保健福祉活動とリハビリテーション [準備・課題]社会復帰のための社会資源についてまとめる。(3h)					
15	精神障害者の社会復帰についてと精神看護援助論まとめ [準備・課題]地域社会復帰への問題点と社会資源活用方法をまとめる。(3h)					
時間外での学習	準備・課題に示した内容を確実に学修してください。					
受講学生へのメッセージ	オフィスアワーは、月曜日と金曜日の16：20～17：00です。					

精神看護演習		看護学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：酒井 和美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	こころの機能と障害について学習し、こころを病む人の代表的な障害の事例を通して援助技術の基本や対象への看護過程の展開方法について習得する。					
授業方法	紙上事例を使って事例展開（個人ワーク）とディスカッション、適宜DVDの視聴を取り入れながら進める。（2事例を準備）					
到達目標	1. [知識・理解] こころの機能と障害について理解する。（◎） 2. [知識・理解] こころを病む人への治療的コミュニケーション技術、観察技術、対象の安全管理、人権擁護や基本的な援助技術について理解する。（◎） 3. [思考・判断・表現] 精神に障害をもった患者の看護過程の展開方法が理解できる。（◎） 4. [技能] チーム医療におよび他職種との連携と協働における看護師としてのメンバーシップ・リーダーシップについて理解する。（△） 5. [技能] 精神障害をもった患者の看護実践における他職種との連携・協働について理解できる。（△） 6. [関心・意欲・態度] 精神障害をもった患者の看護について関心をもち、積極的に学習することができる。（△）					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	看護過程の事例展開（2事例）	30	30	-	-	60
	課題レポート	10	10	-	-	20
	看護理論理解	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	40	40	10	10	100
成績評価と割合	看護過程の事例展開(個人ワーク2事例) 60%、課題レポート 20%、看護理論理解 10%、受講態度 10%の合計100%で評価する。					
テキスト	デジタルナースング・グラフィカ『精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 デジタルナースング・グラフィカ『精神看護学(2)：精神障害と看護の実践』メディカ出版					
参考書・教材	『系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開』医学書院 中野浩幸 他『精神看護学実習ポケットブック 増補版』精神看護出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	精神看護実践における看護の役割と対象の捉え方 [準備・課題]①入院のメリットとデメリットを挙げる ②精神科の入院形態にはどのようなものがあるか ③治療的環境とはどういうものか ④暴力を予防するための注意することとは何か(3h)					
2	患者の権利擁護 [準備・課題]こころを病む人を守るための関連法規について(3h)					
3	患者・看護師関係① 人間関係作りの技術 [準備・課題]コミュニケーション技術について(3h)					
4	患者・看護師関係② プロセスレコード [準備・課題]プロセスレコードの個人ワーク(3h)					
5	患者・看護師関係③ プロセスレコードの分析 [準備・課題]人間関係作りの理論(3h)					
6	オレム・アンダーウッドによる「セルフケア不足理論」 [準備・課題]精神看護の関わり深い看護理論家「ペブロウ」・「J.トラベルビー」・「オレム」・「P. R. アンダーウッド」(3h)					
7	事例展開：事例1の紹介と情報整理 [準備・課題]事例1の情報・解釈(分析)・問題点の抽出(3h)					
8	事例展開：事例1の問題点抽出と看護計画立案 [準備・課題]事例1の看護過程展開(3h)					
9	事例展開：事例1の発表と評価 [準備・課題]事例1の発表準備(3h)					
10	事例展開：事例2の紹介と情報整理 [準備・課題]事例2の情報・解釈と分析(3h)					
11	事例展開：事例2の問題リストと関連図作成 [準備・課題]問題リストの優先順位とその理由、関連図作成(3h)					
12	事例展開：事例2の看護計画立案 [準備・課題]看護計画の目標設定と看護計画(3h)					
13	事例展開：事例2の発表と評価 [準備・課題]事例2の発表準備(3h)					
14	事例展開：事例1と事例2のまとめ [準備・課題]臨床における精神看護の実際とその評価について 抗精神病薬の副作用への看護について(3h)					
15	社会復帰に向けた看護について [準備・課題]急性期・回復期・慢性期の看護のポイントについて 社会資源を活用した地域移行への支援について(3h)					
時間外での学習	2事例の看護展開を行います。必ず精神疾患の病態・薬物療法と副作用について勉強するように心がけてください。参考書としてあげてある図書はできるだけ購入し、精神看護学実習や看護師国家試験にも使用してください。					
受講学生へのメッセージ	こころを病む人に対するの捉え方を復習しておいてください。日頃の自分の対人関係のあり方についても見つめ直してみましょう。 オフィスアワーは、月曜日と金曜日の16：20～17：00です。					